

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 5月 1日

事業所名 オールケア守口

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	57%	43%	必要に応じてスペースの確保を行い対応している	前面土禁にしたことで活動するスペースの確保ができ、また過ごし方や活動によって安全確保を行っています。
	2 職員の配置数は適切である	71%	29%	個の力の底上げの為、研修等を実施している	週6営業の事、不定期利用の関係で常時適切とは言いがたい。スタッフ間で協力し合い職員の募集も行なっている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	86%	14%		更に機能的な場を維持できるよう業務改善を行います。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	67%	33%	目標に対する共有を図り個々で認識を深めていきながら達成できるように取り組んでいる	目標に対する具体的な取り組みや周知を行い、振り返りの場を設けて達成するための改善策を検討していく
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	33%		アンケート、モニタリング等を活用し、業務改善につなげています。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%		第三者による外部評価は行っていませんが、法人内の内部監査を実施し、業務改善に努めています。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	お子様の支援を実施できる研修を行い個別の支援計画立案の基礎として活用できる取り組みを行っている	お子様の生活状況や適応行動についての聞き取りや行動観察を行い具体的な支援を明確化する。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%		ミーティング時に立案内容を煮詰め、活動プログラムを作成しています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%		ミーティング時、年間予定表等を活用し、月間、季節ごとの行事、イベント等を工夫しています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	86%	14%		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	67%	33%		個々の児童の特性を把握した支援を行い、職員間においても共有するようにしています。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%	14%		朝礼時、予定表に基づき、活動の分担や留意点を確認しています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	71%	29%		終礼時、その日気づいた点を終礼記録に記入し、職員間で共有しています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%	14%		ヒヤリハットなどを活用しながら、日々の変化に留意し、事故防止に努めています。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	67%	33%	3か月で中間モニタリングを取り入れて放課後等デイサービス目標の見直しを図っている	ケース会議を適切に行います。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	83%	17%	充実した活動内容を盛り込むようにしている。	個別に合わせた日常生活の活動、自立活動の実施を更に強化していきます。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		児童発達支援管理責任者が必要に応じて、相談支援事業所の協議や担当者会議に参画しています。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%		学校の年間計画・行事予定等を把握しながら、保護者等との連携を密にし、連絡・調整に努めています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%	14%		重要事項説明書に記載されています「かかりつけ医療機関等」と連絡等をとっています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	67%	33%		園からの就学時、特に児童をより理解をするため、園を訪問して活動状況や食事方法などを見せていただいています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		施設内の生活介護とも情報の共有を図っています。また、状況に応じて、他事業所等とも情報の共有化を図っています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		児童発達支援センター等の専門機関は、必要に応じて、助言や研修を受けています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	67%	33%	年間の行事の中に施設開放で地域のお子様たちと交流を図り、小学校の児童クラブの企画にも取り組んでいる	交流を図る取り組みを相互で検討していく為に情報収集と連携を図ります。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	67%	33%		地域協議会には積極的に参画しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		送迎時は、保護者の方と直接話し、日ごろの学校での様子や希望を聞くように努めています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	33%	面談や日々の送迎時などに相談を受けている	モニタリング時、必要に応じた支援をしていますが、今後、職員研修の充実を図ります。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約時に契約書、重要事項説明書等をにより、丁寧な説明を行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		モニタリング時など、住宅環境や支援内容について、必要な助言等を実施しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%		求められる交流の場を設ける事ができるように保護者と共に検討していきながら働きかけていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%		児童や保護者からの苦情については、重要事項説明書に記載のとおり、迅速かつ適切に対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		当社のホームページなどを活用し事業所内容等を発信しております。また、随時、法人全体の広報で事業所の活動状況を発信しています。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		重要事項説明書に記載のとおり、児童の記録及び情報管理等を徹底してまいります。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		常に保護者と緊密に連絡をとるようにしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		地域に開かれた事業所とするため、行事等の開催については近隣住宅、マンション、学校等に招待状を送付しています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		緊急対応マニュアルファイルや感染対策マニュアル等を整備しています。職員はもとより、今後は保護者にも周知徹底をしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%		年2回の非常災害訓練及び月1回必要な訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	年に1度職員全体に向けた権利擁護研修を実施している	虐待委員会を中心に定期的に見直し適切な対応を行います。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	80%	20%		やむを得ず身体拘束する場合には、保護者等に事前の十分説明し、了解を得たのち、個別支援計画に記載しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	契約、面談時にアレルギー等の有無、対応の確認を行っている	主治医の指示書内の項目にアレルギー対応の詳しい詳細を追加しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハット事例をミーティングなどで活用し、職員間で共有し、事故防止に努めています。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 6 年 5 月 1日

事業所名 オールケア守口 保護者等数（児童数） 7名 回収数 割合 50 %

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた 対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	57%	43%	0%	0%		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	86%	14%	0%	0%		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100%	0%	0%	0%		
切 な 支 援 の 提 供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%	0%	0%	0%		
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100%	0%	0%	0%		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	43%	14%	0%	43%		
保 護 者 へ の 説 明 等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	86%	14%	0%	0%		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%	0%	0%	0%		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	71%	14%	0%	14%		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	86%	0%	0%	14%		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	71%	29%	0%	0%		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	86%	14%	0%	0%		
	14	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	0%		
常 時 等 の 対	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	86%	14%	0%	0%		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	71%	14%	0%	14%		
満 足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	100%	0%	0%	0%		
	18	事業所の支援に満足しているか	86%	14%	0%	0%		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 5月 1日

事業所名 オールケア守口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	57%	43%	必要に応じてスペースの確保を行い対応している	前面土禁にしたことで活動するスペースの確保ができ、また過ごし方や活動によって安全確保を行っています。
	2	職員の配置数は適切である	57%	43%	個の力の底上げの為、研修等を実施している	週6営業の事、不定期利用の関係で常時適切とは言い難い。スタッフ間で協力し合い職員の募集も行なっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	71%	29%	排泄場所に設置している洗面台で子供の身長に合わせて足台の設置を行い自分で手洗いを実施できるようにしている	車いすやバギーだけでなく独歩の子どもたちや床で過ごす子どもたちが行きやすい場所へ動いていけるように配慮し対応していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	57%	43%	感染対策で毎日ホール内の消毒、おもちゃ等の消毒も実施	子どもの興味を抱くものに対する目線に合わせて配置を行っていく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	57%	43%	目標に対する共有を図り個々で認識を深めていきながら達成できるように取り組んでいる	目標に対する具体的な取り組みや周知を行い、振り返りの場を設けて達成するための改善策を検討していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	33%		毎年実施し意見を踏まえて改善となる検討の実施
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%		児発管がより丁寧な説明を行い、職員についてもお答えができるようにする
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	83%	17%		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内	67%	33%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	57%	43%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	71%	29%		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	71%	29%		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	67%	33%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71%	29%		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	67%	33%		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	86%	14%		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	保護者からの情報で周知している	関係機関との連携を更に強化していく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	83%	17%	就学前に小学校との連携にて学校見学の実施を行っている	支援学校との連携を密に図っていくために見学の通達があれば積極的に参加する
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		児童発達支援が開始する為、関係機関や研修等に積極的に参加をしていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	80%	20%		近隣の保育園や幼稚園との交流を図る取り組みを相互で検討していく為に密に情報共有の連携は取っておく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	積極的に参加し関係機関との連携や情報交換に努めている	関係機関との連携を更に深めていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	67%	33%	面談や日々の送迎時などに相談を受けて対応をしている	ニーズの聞き取りを強化していく また、よりの確な支援の為、ペアレントトレーニングについての学びを深める
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		今後も継続して行っていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83%	17%		今後も継続して行っていく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	17%		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%		今後も迅速に対応を行っていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		今後も継続して行っていく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%		児童発達支援事業は毎月の避難訓練実施の計画を立て実施する取り組みを強化していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	83%	17%		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%		事故分析の共有・検討を行い、再発防止に向けた対策、取り組みの強化を図る
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年に1度職員全体に向けた権利擁護研修を実施している	権利擁護研修、職員に関して虐待アンケートで検討を図っていく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	80%	20%	個別支援計画書に記載してご家族様へ同意を頂いている	子どもの成長に応じ、適宜家族様と共有、説明を行い納得した上で同意を頂いていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 6年 5月 1日

事業所名 オールケア守口 保護者等数（児童数） 2名 回収数 割合 90 %

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない		
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	100%	0%	0%	0%		
	2	職員の配置数や専門性は適切である	100%	0%	0%	0%		
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	0%	0%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	0%	0%		
適切な 支援 の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	100%	0%	0%	0%		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	0%	0%		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	0%	0%		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	100%	0%	0%	0%		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	0%	0%		
適切な 支援 の 提供	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	100%	0%	0%	0%		
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされている	100%	0%	0%	0%		
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニングiv等）が行われている	50%	0%	0%	50%		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	100%	0%	0%	0%		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	100%	0%	0%	0%		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	100%	0%	0%	0%		
17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	100%	0%	0%	0%			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	100%	0%	0%	0%		
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	100%	0%	0%	0%		
常時等の対	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	50%	0%	0%	0%		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	50%	0%	0%	50%		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	100%	0%	0%	0%		
	23	事業所の支援に満足している	100%	0%	0%	0%		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。